

あかいら

No.365



2019.4

岩手県勤労者山岳連盟



盛岡山友会



今後の日程(5/1～6/5)

日付	曜日	行事	日付	曜日	行事
5/1	水		19	日	
2	木		20	月	
3	金		21	火	
4	土		22	水	◎5月例会(勤労福祉会館)18:45～
5	日		23	木	▲氷上山(ウィーク)
6	月		24	金	
7	火	☆県連理事会	25	土	
8	水	◎運営委員会(杜陵老人福祉センター)18:45～	26	日	▲秋田駒ヶ岳(四季)
9	木		27	月	
10	金	▲白木峠(ゆうゆう)	28	火	
11	土		29	水	
12	日	▲鞍掛山、東根山(山行企画)	30	木	
13	月		31	金	
14	火		6/1	土	
15	水		2	日	▲七時雨山、五葉山(山行企画)
16	木	▲朝島山(スケッチ)	3	月	
17	金		4	火	
18	土		5	水	

原稿のお願い

5月号の原稿締切り

◎ 5月4日(土)

※手書き原稿の場合は、2日前迄とします。

原稿の基準

■サイズ:A4 山行報告は必ず1ページまたは2ページで作成をお願いします。

■本文枠:幅17cm・縦25cm または 余白:上・下25mm 左・右20mm

■本文のフォント:10～12ポイント、明朝体、またはゴシック体で

※編集作業中に文字化けする可能性がありますので、フォントは守ってください。

☆「かわら版」の原稿募集中!メール(原稿)のタイトルは「かわら版原稿」で送ってください☆

□送り先 ◎手書き原稿(郵送)

会員No. 357 渡部 彩子

〒020-0632 滝沢市牧野林 1047-66 TEL 090-7528-1968

◎メール原稿

会員No. 301 久保 加世子

メールアドレス k-kubo@mba.nifty.ne.jp

今年度の辞令式後の職員会議の最中に、新元号が「令和」となったとの情報はいってきました。新入職員は私の孫と年齢が近く、新元号に笑みが浮かび緊張から解放された、印象的な4月1日になりました。

平成の5年目に盛岡山友会に入会したのだから、もう古手会員にはなっている事に驚きもしています。「あの山に登りたい、雪山にも行きたい」希望は自分の努力なしには実現しない事を否応なしに理解も出来ました。山友会に入り、学ぶものが多大にあり、その事が職場で働く中でどれ程の力になってくれた事でしょうか。今年で47年目の勤務に入ろうとしております。

山では自然保護部に所属して、早池峰山のし尿汲み取りが、一番印象が強く残っております。年を取ると共に、河原の坊コースは厳しさを増してきましたが、ハヤチネウスユキソウをはじめとする山野草に、どれだけ救われてきた事でしょう。あの可憐で美しい山野草にどうしてこんなにも魅かれてしまうのでしょうか。

今の職場は児童養護施設で、何らかの事情で家庭では養育できない子ども達が入っています。3月には退園式があり、挨拶の中に「15年間お世話して頂き有難うございました。」と涙ながらに話す18歳の子どもがおりました。3歳の時に小さなリュックを背負って故郷を後に、児童相談所の職員の手をしっかりと握って、どんなにか不安な気持ちで、この盛岡に来たことだろうかと思像して私も涙が止まりませんでした。

大人の庇護なしには生きていけない子ども達と、守られなければ絶滅してしまう高山植物達、いつしか私は自分自身のポリシーとして、守り抜く者(物)をしっかりと掴んだと思ったのでした。

現実の仕事は、なにせ子どもも相手なので体力なしには、やっていけません。「山友会もとてもきつくてついていけない」と思いながらも離れがたいのはなぜなのでしょう。登った山の魅力もさることながら、

ひとりでは頂上までたどりつけなかった山が、どれほどあった事かと思う時に、山友会の仲間の顔が浮かんでくるのです。本当に多くの仲間にも助けられてきました。その優しさが、私は職場の子ども達を養育していく時の根底にもなってきたと思っています。

自然を守る事と、子ども達を守る事は同じだと思ふ心を忘れずに、これからも自分のペースで山歩きをして行こうと思っています。

もくじ

01	今後の日程(事務局)	12	山行報告 遥かなり金名水	村田 眞司	
02	縦走路 「子ども達と自然保護」	川村 雅子	13	追悼特集 木村一さんを偲ぶ	渡邊 健治
03	運営委員会報告	14	追悼特集 木村一さんを偲んで	松田 希 久保加世子	
05	第33回定期総会報告	15	追悼特集 木村一さんを悼む	古川 孝	
06	事務局から	17	追悼特集 木村一さんの思い出	山田 潔	
07	専門部報告 山行管理委員会	教育遭対部	20	追悼特集 木村一さんへ	渡部 彩子
10	行ってきました	21	追悼特集 ベビーブーム の昭和23年生まれ	福山 茂和	
11	今後の山行計画	22	交流の広場	三浦 明夫	

2019年度 第1回運営委員会報告

■出席者：15/17名 2019.4.9(火) 18:45～20:05 杜陵老人福祉センター

渡邊 三浦(明) 中村(美) 久保 小川 中村(数) 松田(幸) 千田 大倉 古川 小田(嘉) 佐々木(善) 松田(希) 大森 五嶋

【進行:中村(美)、記録:中村(美)】

1 会長あいさつ

今日は第1回の運営委員会で大事な会議である。人数は少なくなったがプラス志向で頑張りたい。

2 報告事項・確認事項

(1)現在の組織状況(4月8日現在)

会員数 87名(男 42名/女 45名) 家族会員…5名 会友…5名 登山時報 5月号 40部

退会者 (3月末で退会された方)

NO, 125 中根和子 271 西一雄 370 本間典 466 高橋豊 471 柏木幸代 473 高橋敏明

485 安藤文彦 488 中村由佳利

会友 261 亀ヶ森貴子

新入会者 No, 489 成田さゆり 490 菅原薫 491 菅原里華 (敬称略)

☆ 新運営体制での役割分担 (別紙参照)

(2)各専門部等の取組状況

① 山行管理委員会…4月例会のミニ講座で、管理委員会からとHPについて

② 教育遭対部…5/12 雪上訓練予定

③ 組織部…登山教室に早急に取り組む

④ 自然保護部…春の観察会をしたい。いのししの観察会も。

⑤ 県連報告…第1回理事会は4/16、 当会の村上明枝さんに会計をお願いした。

(3) その他報告事項

・全国連からPR用パンフレットが出された。会の名前を入れられるもの。200部取り寄せた。

3 協議・承認事項

(1)緊急連絡先(山行委員会)…別紙へ

(2)例会のミニ講座…4月は上記、5月は山行計画書の作り方と打合せの仕方。

2019年度 第2回運営委員会は 5月8日(水) 杜陵老人福祉センターです

例会の司会と後片づけ

担当月	担当部	担当月	担当部	担当月	担当部
4月/10月	教育遭対部	5月/11月	山行企画部	6月/12月	会報部
7月/1月	組織部	8月/2月	事務局	9月/3月	自然保護部

2019 年度役員等一覧

役 職		2019 年度		
		会員No.	氏 名	
役員（五役）	会長	2	渡邊健治	
	副会長	382	三浦明夫	
	山行管理委員長	2	渡邊健治（兼）	
	遭難救助隊長	382	三浦明夫（兼）	
	事務局長	19	中村美栄子	
運 営 委 員	事務局	次長	301	久保加世子
		次長	423	小川優子
	教育遭対部	部長	267	中村数博
		副部長	279	松田幸久
		指導スタッフ	382	三浦明夫（兼）
		〃	234	古川 孝（兼）
		〃	2	渡邊健治（兼）
		〃	294	松田 希（兼）
	山行企画部	部長	6	千田勝則
		副部長	305	山田 潔
		副部長	455	大倉 博
	組織部	部長	234	古川 孝
		副部長	385	小田嘉洋
		副部長	477	佐々木義男
	会報部	部長	294	松田 希
		副部長	301	久保加世子（兼）
	自然保護部	部長	444	大森信慈
		副部長	1	五嶋十三
	山行管理委員会	委員	234	古川 孝（兼）
		委員	382	三浦明夫（兼）
		委員	279	松田幸久（兼）
		委員	385	小田嘉洋（兼）
		委員	455	大倉 博（兼）
		委員	305	山田 潔（兼）
		委員	267	中村数博（兼）
		委員	444	大森信慈（兼）
		委員	301	久保加世子（兼）
	会 計 監 事		380	大峠茂喜
			76	新田俊博
	県 連	会長	2	渡邊健治（兼）
		理事	6	千田勝則（兼）
		理事	204	村上明枝
会計監事		19	中村美栄子（兼）	

第 33 回 盛岡山友会定期総会議事録

日時 2019 年 4 月 3 日 (水) 18 : 45 ~ 20 : 15

- 1 開 会
- 2 議長選出 佐々木 義男 (No.477)
- 3 総会役員選出 資格診査委員 熊谷 久美子 (No.268).
選挙管理委員 小田 春美 (No.421)
議事録署名委員 松田 徹 (No.277)
書 記 佐々木 優子 (No.478)
- 4 会長あいさつ
(物故会員の為 黙とう)
- 5 資格審査委員報告
会員 84 名中 出席 29 名、委任状 24 名 計 53 名で過半数を超え総会成立
- 6 選挙管理委員報告
- 7 議事
 - (1) 承認第 1 号 2018 年度活動報告・庶務報告
 - (2) 承認第 2 号 2018 年度収支決算書報告・会計監査報告
 - (3) 議案第 1 号 2019 年度活動方針 (案)
 - (4) 議案第 2 号 2019 年度活動計画 (案)
質疑なく一括承認
 - (5) 議案第 3 号 2019 年度収支予算 (案)
質疑なく 一括承認
 - (6) 議案第 4 号 役員等選出
当日立候補者なく、執行部が候補者を提案
承認：別表参照
- 8 2019 年度スローガン
確認：議長に続き全員で唱和
- 9 新旧役員挨拶
旧役員：石澤妙子 福山茂和 渡部彩子 岡義博
新役員：五嶋十三 久保加世子 佐々木義男
- 10 議長退任
- 11 閉会

議事録署名委員

松田 徹

事務局から

☆ 会員動向 (2019/4/9 現在)

会員数 87 名 (男 42 名 / 女 45 名) 登山時報 40 部 家族会員…5 名 会友…5 名

○退会者 No.125 中根和子 No.271 西一雄 No.370 本間典 No.466 高橋豊 No.471 柏木幸代
No.473 高橋敏明 No.485 安藤文彦 No.488 中村由佳利 会友No.261 亀ヶ森貴子

○新入会者 No, 489 成田さゆり 盛岡市仙北

No, 890 菅原薫 盛岡市本宮字鬼柳

No, 891 菅原里華 盛岡市本宮字鬼柳

(敬称略)

☆ 名簿修正のお願い

新名簿を作成するために、4 月例会で名簿を回覧します。記載事項に変更ある方は赤字で訂正し、自分の名前のところに レ を記してください (確認のため)。専門部変更も。例会に出席できない方は、事務局にお知らせください (メールまたは FAX で)。

☆ 会費納付のお願い

4 月は前期会費の納付期です。(できれば 1 年分)

さらに登山時報を新たに購読する方は事務局にお知らせください。

☆ 「会員の手引き」を作成し、配布しています。

まだお手元にっていない方は、事務局に連絡してください。

◆ 当面の予定

4 月 16 日 (火) 県連第 1 回理事会 (花巻)	5 月 8 日 (水) 第 2 回運営委員会 (杜陵老人福祉センター)
4 月 24 日 (水) 4 月例会 (勤労福祉会館)	5 月 22 日 (水) 5 月例会 (勤労福祉会館)

本日の例会進行・会場担当は 教育遭対部です
5 月の例会は 5 月 22 日 (水) 勤労福祉会館 です

専門部報告

●山行管理委員会

2019年度の山行管理ルールです。山行管理委員の構成と緊急連絡先当番の割付表が新しくなりました。事故のない楽しい山行を続けるために、年に一度はルールを確認してください。

2019年度 山行管理ルール／盛岡山友会

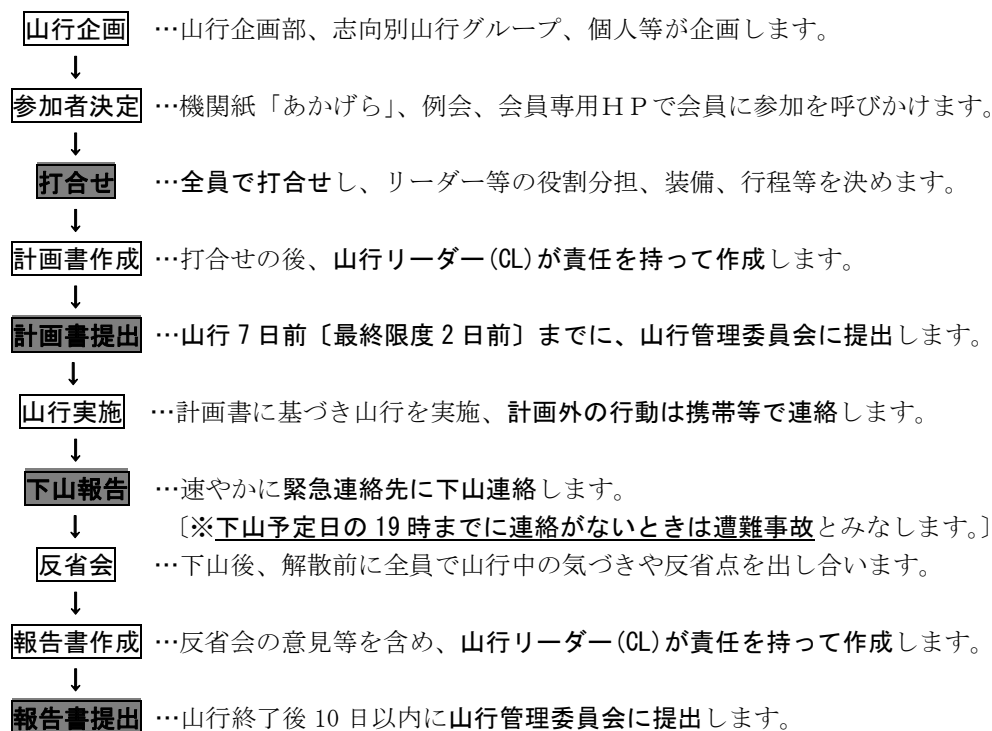
1 山行管理の意義

山行管理の意義は、計画を山行管理委員会に提出しチェックしてもらうことで、未熟な計画による事故を未然に防ぐこと、万一事故が発生したときに迅速な救助活動ができることです。もちろん、新特別基金(遭対基金)の給付を受ける絶対条件でもあります。

また、山行報告書の提出は、山行記録としての価値に加え、事故やヒヤリハット等の経験を会全体で共有し、同じような過ちを犯さないようにするものです。

2 山行管理の基本ルール

□企画から報告までの流れ



□山行打合せの留意点

- ① 打合せの最初に、ルート経験、山行技術、統率力等、参加メンバーの中で最もすぐれた者をチーフリーダー(CL)に選びます。(これはあくまで原則であり、リーダー育成の視点から未経験者を抜擢することもあります。)
- ② チーフリーダー(CL)は、山行打合せの中心になり、適宜質問するなどしてメンバーの登山経験や技術、健康状態や体調等の把握に努めます。
- ③ サブリーダー(SL)は、次期チーフリーダーを育成する視点から、山行経験等を踏まえながら特定の人に偏らないよう選定します。(CLが指導助言します。)
- ④ その他のメンバーは、チームワークで山行を創り上げていく視点から、必ず何らかの役割を担います。(その他のメンバーは、リーダーを支える役割を担います。)

3 山行計画書・報告書の作成ルール

□計画書作成の留意点

- ① 計画書の提出時は、様式左肩の「A山行計画書」のAを□又は○で囲み、1～2ページのみ記入し提出してください。(メールの場合は、3ページ空欄のまま可)
- ② 緊急連絡先は、山行管理委員の持回り当番者とします。当番は週替りとし割付は別途お知らせします。
- ③ 緊急時の対応等は、登山のリスク管理の重要性を理解し必ず記入してください。
- ④ ルート図は、概念図またはインターネットで取り込んだ地形図等に、登山口、ルート、幕营地、下山口等を明示してください。(省略せずに記載のこと。)
- ⑤ 会員外の参加者がいる場合は、氏名、年齢、連絡先のほか、チェック事項の欄で保険の有無や力量等の情報を可能な限り記載してください。(ツアー登山等で不特定の場合は除く。)

□報告書作成の留意点

- ① 報告書の提出時は、様式左肩の「B山行報告書」のBを□又は○で囲み、報告欄(3ページ目)に記入し、計画内容に変更があった場合は、計画欄(1～2ページ)に朱書きや見え消しで変更内容を書き加えるなどして提出してください。
- ② 山行管理委員会に届けた計画内容から、変更があった場合は「計画変更」欄に必ず記入します。(入山前の変更は、事前に必ず緊急連絡先と山行管理委員長に連絡してください。)
- ③ 「山行概要」欄は、計画との相違点、ルートの状況、メンバーの体調、事故やヒヤリハットの状況等、山行実施の内容をできるだけ客観的に記入します。(個人の紀行文ではありません。)
- ④ 「特記事項」欄は、事故やヒヤリハットの原因や反省点、今後の取組み方向など、会が共有すべき情報や次のステップアップにつながる内容を記入します。(ここの記述が報告書で最も重要であり、どんな小さなことでも記述してください。)
また、日本シカの食痕などの目撃情報は、参考情報の選択肢「シカ情報」で記入してください。
- ⑤ 報告書の書き方は、客観的な視点で同じ山へ入る者にとって役立つ内容とすることがコツです。(山行記録の観点からルート図は省略せずに必ず記載)

4 個人山行の特別ルール

個人山行(会の中で公開募集しない山行)の場合は、会員個人の責任の下で、以下の特別ルールを適用します。

□個人山行の特別ルール

- ① 日常的なトレーニングは電話・メール等でもよい
日常的なトレーニングで近場の低山に日帰りに登る場合は、計画書の提出に代えて電話、メール、ファックス等でも良いこととします。
- ② トレーニング等の報告書の省略
個人山行であっても報告書は通常ルールで提出してください。ただし、トレーニング等で事故・ヒヤリハット等がない場合は報告書を省略できます。

5 計画書等の提出先と指導・助言

- ① 計画書・報告書の提出先は、メールの場合は以下の山行管理専用アドレスに提出します。

山行管理専用アドレス : morioka_yamakan@freeml.com

- ② このアドレスに送付された計画書等は、山行管理委員の全員で共有し、必要に応じて委員会内で意見交換したのち、指導・助言が必要な場合は受付担当委員から連絡します。
- ③ 計画書の提出があったときは、受付担当委員から速やかに受理連絡を行います。なお、山行管理委員会で指導・助言が必要と判断した場合のみ、受理から24時間以内に受付担当委員から連絡します。
- ④ メールが使用できない場合は、手渡し、ファックス又は郵送で次頁の集中管理先（山行管理委員長）に提出します。提出された計画書は、PDF化して山行管理専用アドレスに転送し同様の処理を行います。

6 山行管理委員名簿

□山行管理委員名簿（2019年度）

記号	会員No.	氏名	携帯(SMS)	自宅	備考
A	002	渡邊健治	090-9634-2257	019-641-3905	会長兼山行管理委員長
B	234	古川 孝	090-8923-3120	019-619-1014	組織部
C	382	三浦明夫	090-1069-2333	019-692-5899	副会長兼遭難救助隊長
D	455	大倉 博	080-4524-5310	019-647-2455	山行企画部
E	385	小田嘉洋	090-8781-8137	019-662-3535	組織部
F	279	松田幸久	090-1374-2367	019-663-5383	教育遭対部
G	267	中村数博	090-2270-9185	019-623-8500	教育遭対部
H	305	山田 潔	090-7073-8822	019-661-5896	山行企画部
I	301	久保加世子	090-8784-4287	019-661-0986	事務局
J	444	大森信慈	070-4016-6825	019-647-1309	自然保護部

7 受付担当者

山行管理委員は、下表の受付当番割付表のとおり受付担当を週単位で持ち回ります。

受付の担当者は、緊急連絡先を担うとともに、山行管理専用アドレスに送付された計画書・報告書の指導・助言の窓口となります。

なお、受付担当者が当番週に山行がある場合は、次週以降の担当委員と日程を交代するなど、山行が決まった時点で予め調整し、あかげらや会員専用ホームページ【お知らせブログ】等で周知します。

□受付当番割付表（2019年度）

週	当番	週	当番	週	当番	週	当番	週	当番	週	当番
4月①	渡邊	6月①	大森	8月①	久保	10月①	山田	12月①	松田	2月①	小田
4月②	古川	6月②	渡邊	8月②	大森	10月②	久保	12月②	中村	2月②	松田
4月③	三浦	6月③	古川	8月③	渡邊	10月③	大森	12月③	山田	2月③	中村
4月④	大倉	6月④	三浦	8月④	古川	10月④	渡邊	12月④	久保	2月④	山田
4月⑤	小田	7月①	大倉	9月①	三浦	11月①	古川	12月⑤	大森	3月①	久保
5月①	松田	7月②	小田	9月②	大倉	11月②	三浦	1月①	渡邊	3月②	大森
5月②	中村	7月③	松田	9月③	小田	11月③	大倉	1月②	古川	3月③	渡邊
5月③	山田	7月④	中村	9月④	松田	11月④	小田	1月③	三浦	3月④	古川
5月④	久保	7月⑤	山田	9月⑤	中村			1月④	大倉	3月⑤	三浦

(注) 4月①とは、4月の第1週（月曜日始まり）を表します。

● 教育遭対部

ピッケルアイゼン滑落停止訓練、雪上のシート搬送

日 時 : 5月12日(日)

訓練場所 : 八幡平見返り峠付近(八幡平見返り有料駐車場手前無料駐車場)

申し込み : 433 岡 義博 080-6542-8871

締め切り : 5月4日(土)

打合わせ : 5月7日(火) PM6:30 おでって2F

集合場所 : 松尾八幡平ビジターセンター 8:00

(ゲートのオープン 8:30)

持ち物

- ・基本装備:ピッケル、アイゼン、ロングスパッツ、オーバーグローブ、手袋(予備含む) ヘルメット、テルモス、昼食
- ・雨具は傷むので古いものを準備してください。
- ・持っている方は
環付きカラビナ2枚、カラビナ2枚、120cmスリング、60cmスリング
クレムハイス用ロープスリング

*申し込み時は氏名と会員番号をお願いします。

行ってきました!

(3月16日~4月10日現在)

No.	月日	山域	ルート	目的	参加者名	会員	分類
1	3月16日	箱ヶ森	岩鑄飯岡工場付近~山頂往復	歩くことの少ない上飯岡岩鑄コースからのルートに登る	L小田(嘉)・S中村(敦)・高橋(陽)・小田(春)・佐々木(善)	5	個人
2	3月16日	安達太良山	くろがね小屋~禁師岳コース	他県の冬山に登る	L内堀 [会員外] 4名	1	個人
3	3月16日	岩手山	網張スキー場~お花畑経由~不尊平小屋~山頂往復	雪の岩手山の頂上に登る	L古川・S山田(潔)・小原(耕)	3	志向別G
4	3月17日	鎌倉森	網張キャンプ場~鎌倉森~犬倉経由~網張スキー場	雪山の体験	L工藤(敬)・S加藤(佳)・中村(美)・遠藤(干)・石澤・日比野・熊谷(久)・綴木・佐々木(善)	9	志向別G
5	3月17日	鞍掛山(岩鷲の滝)	相ノ沢~新道出合~鞍掛山分岐~岩鷲の滝往復	岩鷲の水瀑を見る	L岡(義)・S高橋(徳)・太田代	3	個人
6	3月17日	西吾妻山	グランデコススキー場コース	他県の冬山に登る	L内堀 [会員外] 4人	1	個人
7	3月21日	ひょうたんケイブ(岩泉町)	若葉エリア~大洞窟エリア	クライミング(ロープ)講習会	高橋(英) ※ワンムーブ主催講習会	1	他団体
8	3月23日	朝島山(607m)	中央コース~山頂~立石神社口	乙部三山のひとつの山に登る	L岡(義)・S高橋(徳)・太田代	3	個人
9	3月24日	月山(宮古市 455.2m)	白浜口~山頂往復	沿岸の春の息吹を感じる	L小田(嘉)・S大倉・加藤(佳)・小田(春)	4	個人
10	3月24日	秋田駒ヶ岳	旧スキー場~片倉展望台~男女岳往復	新ルート開拓	L山田(潔)・S村田・久保・大峠・古川	5	志向別G
11	3月26日	赤林山	矢巾温泉コース	トレーニング	L福山	1	個人
12	3月26日~3月27日	熊野古道	熊野那智大社~舟見峠~越前峠~小口/小口~桜峠~石堂茶屋跡~講川	大雲取・小雲取越	菊地(良)・菊地(広) ※コープトラベル東北企画ツアー	2	ツアー会社
13	3月30日	箱ヶ森	猪去沢口~箱ヶ森~マクラ山~猪去沢口	トレーニング	L岡(義)・S高橋(徳)・太田代	3	個人
14	3月30日	源太ヶ岳	松川コース	源太ヶ岳の大斜面を滑りましょう	L久保・S大峠・村田・舟越	4	志向別G
15	3月30日~3月31日	源太ヶ岳	松川温泉~源太ヶ岳~大深山荘往復	冬の泊山行	L石澤・S新田・日比野・熊谷(久)	4	志向別G
16	4月7日	月山	姥沢ルート	月山から春スキーを始める	久保 [会員外] 11名	1	個人
17	4月7日	片羽山	青の木駐車場~方羽山往復	沿岸地方の春の息吹を感じる	L小田(嘉)・S中村(敦)・S大倉・高橋(陽)・小田(春)・佐々木(善)・熊谷(久)	7	個人
18	4月10日	東根山(928.4m)	ラ・フランスコース	トレーニング	L岡(義)・S太田代・高橋(徳)	3	個人

注:これは、あくまで速報的なものですので、掲載もれや誤り等がある場合はご容赦ください。

今後の山行計画

※ 掲載の山行企画は全会員を対象としています。

実施日	山城・ルート (市町村)	企画	目的	難易度: 歩行/荷物/技術	締切日	打合場所	申込先
		問合せ	コメント		打合日時		
5月10日 (金)	白木峠 (羽後黒沢)	ゆうゆう	ユキツバキを眺める	★/★/★	4月20日	勤福例会前	090-4046-3599 252高橋恵美子
		高橋恵美子	無理をせずのんびりと新緑を満喫する。		4月24日(水) 18:20		
5月12日 (日)	鞍掛山 (滝沢市) 東根山 (紫波町)	山行企画部	今年度第1回会山行	★/★/★	4月20日	勤福例会時	090-8923-3120 古川孝 080-1842-3586 高橋陽子
		古川 孝 高橋陽子	春の息吹を感じ、仲間と一緒に歩きましょう。		4月24日(水) 例会		
5月16日 (木)	朝島山 (盛岡市)	心のスケッチ 山行クラブ	心のスケッチ	★/★/★	5月9日	おでって2F	019-635-3203 (FAX可) 工藤敬子
		工藤敬子	里山の春を見つけに行きましょう。		5月13日(月) 18:30		
5月19日 (日)	駒頭山 (花巻市)	個人企画	山菜取り	★★/★/★	5月12日	おでって2F	019-635-0201 千田勝則
		千田勝則	残雪あればなおさらよいです。		5月13日(月) 18:30		
5月23日 (木)	氷上山 (陸前高田市)	ウィークデイ クラブ	平日山行を楽しむ	★★/★/★	5月9日	おでって2F	019-635-3203 (FAX可) 工藤敬子
		工藤敬子	スズランコース～中央コースを周回してみませんか。		5月13日(月) 18:30		
5月26日 (日)	秋田駒ヶ岳 (雫石町)	四季の山	ロングコースへの挑戦	★★/★/★	5月9日	おでって2F	019-635-3203 (FAX可) 工藤敬子
		工藤敬子	金十郎長嶺を通り、右回り周回コースを歩きましょう。		5月13日(月) 18:30		
6月2日 (日)	七時雨山 (八幡平市) 五葉山 (釜石市)	山行企画部	第2回月例会山行	★/★/★	5月19日	勤福例会時	090-8923-3120 古川孝 080-1842-3586 高橋陽子
		古川 孝 高橋陽子	新百名山の七時雨山、花の百名山五葉山		5月22日(水) 例会		
6月28日 (金)～ 7月2日(火)	礼文島 (北海道)	個人企画	フラワートレッキング、島は花が最高です。	★/★/★	5月26日	おでって2F	019-635-0201 千田勝則
		千田勝則	礼文島登山も出来ます。日程は3日間です。		後日		
7月12日 (金)～ 7月15日 (月)	大雪山縦走 (北海道)	個人企画	広大な高山帯と豊富な花々を歩く	★★★/★★/★	6月9日	おでって2F	019-635-0201 千田勝則
		千田勝則	層雲峡→黒岳→石室(泊)→北海岳→間宮岳→旭岳→旭岳温泉		後日		

あかげら 5月号に掲載する山行計画は、書面、メールにて、山行企画部
No.234 古川 孝 090-8923-3120(ショートメール可) mountfuru2@yahoo.co.jp
 までお願いします。締め切りは5月5日(日)です。

山 行 報 告



遙かなり金明水

No.417 村田眞司

日時：2019年3月2日 天候：晴れ

メンバー：CL 古川、山田、SL 村田（記）

行程：盛岡南 IC 6:20…林道入口 P 7:25/7:45…中沼駐車場 9:20/9:30…尿前川(沢越え) 10:20…青岩(引返す) 11:30…尿前川(沢越え&昼食) 12:00/12:20…中沼駐車場 12:45…林道入口 P 13:30

焼石岳の金明水小屋をスキーで目指した。事前にネットで調べてみたが、スキーでの記録は殆どなく、積雪期の日帰りの記録も無かった。会では、古川さんらが、以前、泊まりで数度、スキーで周回しているという事であった。昨年秋の小屋閉めの日に、事前調査として徒歩で中沼ー金明水小屋ー焼石と周回してみたが、尿前川の渡渉とその後の小屋まで続く急登の大変さが印象に残っていた。

当日、高気圧に覆われ、終日の好天が保証されていたが、風は強かった。国道 397 号線を進み、中沼への林道の入口の路肩に車を止め、シールをつけてスタートした。林道という事もあり、道は明瞭で中沼登山口まではスノーモービルやスキーのトレースもあった。登山口からは、冬季限定でしか登れないという天竺山がはるか向こうに見えた。目指す金明水小屋はそこから標高で 150m ほど下方にある。雪の天竺山は、その名の通り遠い西方を思い起こさせる雰囲気があった。焼石のコース全体に言えるのだが、ブナ林が多く残り、古の自然を感じる事ができる。夏は登山者も多く賑やかだが、積雪期は人間の痕跡を感じる事が殆どなく、自然との一体感を感じたい人に冬はおすすすめだ。

中沼登山口からは、トレースも無くなるが、視野の範囲内にはピンクテープが付けられていた。尿前川にて、降下できそうなところから壁を降りスノーブリッジを渡った。2018年3月17日のネットの記録では、かろうじて渡れた様子だったが、今回は、丈夫なブリッジが川を埋めていた。渡った後の対岸の登りはきつかった。何度もジグを切って、ザラメ気味の柔らかい壁に苦戦を強いられた。しかし、それからも結構な急斜面とトラバースの連続で、金明水小屋に到着できても、帰りは時間的にも体力的にも大変だという判断に至った。通常の間スキーでは、登る事さえできれば、下りはスキー滑降を楽しめるのだが、今回はアップダウンが多く、雪も腐り、帰路とて楽ではない行程となるため、引き返すのは止むを得なかった。再びスノーブリッジを渡ったところで昼食とし、トレースを辿って戻った。天候が良かったので、無理すれば小屋まで到達可能と思われたが、またのお楽しみにするとした。



木村一さんを偲ぶ

No.2 渡邊 健治

去る3月3日、木村一さんは、こよなく愛した山懐に抱かれて亡くなりました。仕事の関係で茨城から岩手に移り住み、縁があって当会に入られたのが2006年10月のことでした。それ以来、盛岡から80km以上も離れた岩泉町から、沢登りや山スキーをはじめ、仕事が多忙な中でも山行に積極的に参加され、訓練や講習では経験に裏打ちされた確かな指導をいただくなど、会にとって欠かせない存在でした。

二年前、茨城に戻られても会に籍を置き、機関紙「あかげら」に岩手の会員よりも数多く投稿され、ACC-J茨城の仲間との充実した山行報告はとても魅力的でした。亡くなる直前にも原稿が届いたばかりで、先月号に遺稿として掲載させていただきました。

彼の魅力は、山だけではありません。岩泉町の誘致企業の経営幹部として、リーマンショック、東日本大震災、台風10号豪雨被害という度重なる苦難にも、従業員第一を貫き通し、持ち前の行動力で会社を支えてこられた姿は、同じ組織経営を預かる身として憧れの存在でした。

あるとき、例会ミニ講座で登山には関係のない経営理念をテーマに講演をいただいたことがあります。その中で、リーマンショックで仕事がほとんどなくなったときでも、助成金で職員研修をやり、東奔西走して貴重な受注を取り付けるなど、苦境の中でも地元中心の従業員の一人もクビを切らずに、リストラなしに会社を支えたそうです。この話を聞いたとき、すべての人を分け隔てなく大切に、優しさあふれる彼の人柄に感銘したことを忘れません。

山行を共にしたときの何気ないようで含蓄ある会話やテレマークスキーの果敢な滑りなど、彼と時間を共にした中で思い出はたくさんあります。会の仲間も同じ気持ちに違いありません。あかげらの今月号に追悼特集を組もうと言い出したのも彼ら彼女らです。

いい思い出だけを残してくれた木村一さんに、仲間とともに心から感謝の言葉を贈りたいと思います。一さん、これからも、どこにいても、盛岡山友会の大切な仲間であってください。本当にありがとう。

木村一さんを偲んで

「希さん、最近登ってる？」一さんにお会いすると必ずと言っていいほど声をかけていただいた。

あるとき私は一さんにぼやいたことがあった。まっちゃんとクライミングに行くのだが、私は度胸がないのでいっこうに登れるようにならない。私が一緒に登らない方がいいのではないかと…。そのとき一さんは確かこんなことを言った。「夫婦で登れることは幸せなことだ。まっちゃんは大丈夫。」

それからしばらくしてお会いしたときに、私は1冊の本を渡された。返さなくていいよと言いながら…。その本は『ザイルの二人』という本で、嶋満則・秋子夫妻のモンブランを中心とした1970年代の登攀記録だった。夫に怒られながら登る妻は「わかってるよ！」と思いながら必死に登る。クライミングは危険と隣り合わせなので時には怒られて当然なのは分かっているが、できない自分がもどかしい。レベルは天と地以上にも違うが自分の姿と重ね合わせて、読み耽った。もう一人の仲間を交えて3人でパーティを組む記録もあり、当時釜石労山の中軽米さんと3人で鎌倉山や縫道石山にチャレンジしていたこともあって、一さんはこの本を私に下さったのだと思う。

山や岩に向かうことの素晴らしさを、それぞれの人に合った形で伝えていた一さん。ありがとう。

「希さん、登ってる？」と目を細めて笑いかけながら尋ねる一さんに、これからも空を仰ぎながら楽しかった山、苦勞した登攀の報告をしようと思う。

(No.294 松田希)

木村一さんとはグループ銀世界での山行が多かったのですが、その中でも鳥海山を祓川から登り、千蛇谷を滑って中島台に降りた山行が一番心に残っています。千蛇谷が良かったと木村さんに聞き、滑ってみたいと思ったわたしの計画に賛同してくださり、お天気も雪も良く、大満足した山行でした。木村さんにも大変喜んでもらいました。

また、「これ読んでみて」と何冊かの本を貸していただいたことがありました。古い本で今はなかなか手にすることができない本でしたが、おかげさまであちこちの山を知ることができました。その他、会報部活動の参考にと茨城の会の会報誌をいただきました。「あかげら」にはたくさんの方の原稿を投稿していただきました。茨城に戻ってから原稿は届き、いつも読むのが楽しみでした。



「今度沢登りに行きましょう！」「そのうち

に富士山を滑りましょう！」と話していましたが、実現できなくなったことがとても残念で寂しく思います。木村さんからは山の楽しい話、時には怖い話を聞き、そして、山の魅力をたくさん教えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。

(No.301 久保加世子)

3月5日突然の訃報に接し、言葉が出ませんでした。3月1日に一さんから珍しくメールがあり、また一緒に行きましょうと返信したばかりでした。

3月10日私は仲間とともに早池峰山アイオン沢に向かいました。このコースは2015年3月28日、一さんと山田、古川の3人で行った思い出深いスキー山行のコースでした。2013年に頂上近くまで行って天候急変で断念、一度も頂上まで行ったことのないこのコースを2年後に一さんから是非行こうと誘われ実行しました。その日は車止めから林道を2時間半歩き、林道からアイオン沢に入り、いくつもの堰堤を越えて、さらに急登を息を切らせて登りました。一さんはスキーシールに雪が付着して(ダンゴ)スキーが重くなり、一さんとしては珍しく遅れ、私も林道で汗をかき過ぎて熱中症気味になり力が入らずさらに遅れ、それぞれ長いルートを苦勞して登り、6時間かかって頂上に着いた時は一さんと手を握り合い、思わず涙を流したものでした。今回は残念ながら途中の事業看板で引き返さざるを得ませんでした。あの一さんとの感動を思い出しながら下山しました。



木村さんが転勤で岩泉町に来て我会に入会してから、一緒に楽しい山行をしてきました。オールラン



ダーの木村さんがテレマークスキーもやられたので、グループ銀世界の仲間と沢山のスキー山行をしてきました。木村一さんが入会してから2007年頃に初めて会ったのが網張スキー場でのスキー訓練だったかと思います。兎平小屋に入って昼食を食べながら木村さんがクライマーでヒマラヤ遠征の経験があることを聞き、すごい人が会に入ってきたと思いました。グループ銀世界では、毎年12月のレスキュー訓練の講師としてのほか、いろいろなことを教えていただきました。2008年7月の高下・大荒沢縦走では突如取り出した赤腰巻(?)にびっくりしたものでした。

またピッケル内蔵ストックとか自分で加工して道具を工夫したり、水気を含む雪用にゴム手袋を普及させたり、アイディアマンでした。





思い出深い山行は早池峰山以外にも多くあります。2009年4月高下岳から和賀岳へ一泊山行をしました。和賀岳へのスキー山行は銀世界でも初めてで、一さんがCL、私がSLでしたが、高下岳で私が遅れ気味になり、不調の私はテントの中で一人寝ていて和賀岳頂上を踏めませんでした。でも翌日は元気になり、羽後朝日岳まで行きましたが、一さんにいろいろ教えられた山行でした。2012年5月鳥海山千蛇谷を滑ったのも忘れられない思い出です。それまで銀世界では鳥海山は祓川～七高山の

往復しかありませんでしたが、月山経由一泊で鳥海山吹浦からの計画でした。一さんの車に4人で泊り、翌日快晴の中七五三掛の急斜面をスキーを担いで降り千蛇谷をTシャツで気持ちよく登りました。苦しい登りの後の滑走は最高でした。一さんのお陰で実行できたものでした。2015年2月の八幡平日帰樹氷ツアーは3文字名前の4人で行ってきました。数年ぶりの岩手側からのロングコースで、最高の樹氷が見られました。帰りは茶臼岳からの滑りがいのあるコースを一さんは磨きをかけたテレマークですいすい滑ってました。仕事が忙しく、なかなか山行に参加できない一さんでしたが、仕事終了後山行出発地まで来て車中泊して参加していました。

一さんが経営されていた岩泉の工場は業績順調で忙しかったようです。リーマンショックの時は仕事が激減し大変だったようですが、国の制度をうまく利用して従業員を一人も解雇することもなく、また新工場の建設などにも手腕を発揮されたようです。岩泉町を襲った2016年8月の台風10号では工場に大きな被害が出て、一さんは文字通り陣頭指揮して工場に寝泊まりして復旧作業をしたと聞きました。私たちも微力ながら台風復旧のお手伝いに行きましたが、自宅アパートの水浸した跡をみて苦勞がしのげられました。

それも落ち着いて、山行にも来れるかと思っていたら茨城に帰ることになりました。その後2017年4月、残雪期の焼石岳に一さんが茨城の仲間を連れて来てくれ、銀世界と一緒に銀明水経由で頂上まで登りました。それが一さんとの最後の山行になってしまいました。

3月1日のメールで「機会がありましたら、また一緒にどこかの山にのぼりたいですね。」と書いてくれたのに、残念で残念でなりません。私と誕生日が同じで(3歳違い)、70歳になったばかりで、まだまだこれからだったのに。こればかりは運命というほかはありません。

一さんを思い出せば、いつものあの笑顔が思い浮かびます。独特の茨城弁で皆にやさしく指導をしていただきました。一さん、本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。



木村一さんの思い出

N o 305 山田 潔

木村さんは、岩泉町での自社工場を任され、知人友人のいない岩泉で孤軍奮闘し、工場を軌道に乗せたころから、我が盛岡山友会に加わり、一緒に岩手の山を楽しんだと記憶しています。最初のうちは、木村さんの活動は得意分野である岩や沢登りが多かったが、岩手は冬が長いので、冬の間楽しめるスキーを密かに練習して我々のスキー仲間「銀世界」と活動を共にするようになりました。

2012年5月、鳥海山を吹浦コース。登る途中で私のスキーのビンディングが壊れ、すぐ外れるようになったとき、針金とペンチで素早くリペアしてください、おかげさまで千蛇谷を登り、雪の大物忌神社に参拝出来ました。千蛇谷を気持ちよく滑った記憶が爽快で、「鳥海山をスキーで東西南北から登ろう」

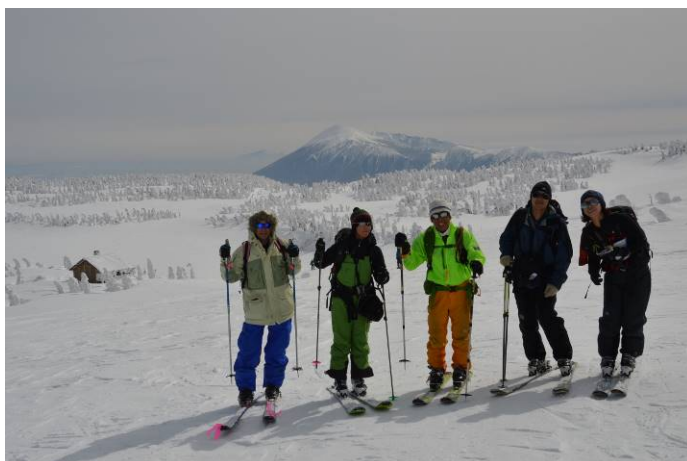


と木村さんに持ちかけられました。「無理！無理！」と思っていましたが、2013年には湯の台コース、2014年には祓川コースから千蛇谷を滑り中島台への縦走コースを制覇し、「あとは百宅コースだけだね」と言っていました。なかなか日程が合わず実現しませんでした。

2013年5月、ゴールデンウィークに岩木山・八甲田山のツアーを組んだ時の事。木村さんの友人の名雪さんも駆けつけてくれましたが、あいにくの悪天候で岩木山スカイラインは通行止め。嶽コースから岩木山に登りましたが、8合目まで登ったもののガスで視界が10mほど。「視界が悪い時は、見える範囲で交互に滑りはぐれないように降りよう」との注意を受けました。また、吹雪の中での休憩では、面倒がらずにツェルトを出して、傘を広げれば空間が広くなり大人数でも入ることができ、体を冷やさないと大切であることを教わりました。



2014年3月、秋田側からの八幡平。すこぶる好天で見事な樹氷群を見ることができました。八幡平は荒天が多く、我々が訪れる休日に晴天となる確率は非常に低い。しかしこの日は、青空の下岩手山を遠方に見据えながらの樹氷原の散策で、これが素晴らしい岩手の冬山と、木村さんもたいそう喜んでいました。



2015年3月、早池峰山アイオン沢からのスキー登頂。早池峰山にはそれまで数回挑戦しましたが、雪の状態が悪かったり、強風で吹き飛ばされそうだったりして山頂を拝めていませんでした。この日は天気が良く雪も落ち着いており、早池峰山特有の岩は雪に覆われており、氷状の雪であったが何とか6時間ロングコースをスキーで山頂まで行くことができました。百名山の一つですが、冬場はあまり人の入らない山だけに木村・古川と3人で山頂に立った時の感

慨は格別でした。

木村さんと山スキーをするようになって、徐々に私たちの山行のレベルが上がってきたような気がします。木村さんの長い登山歴で培われた技術と経験から要所要所で適切なアドバイスを頂きながら楽しく山行をすることができたからだと思います。私たちにとっては一緒に山に行くことは、OJTの先生でした。私が長年あこがれていた、穂高のジャンダルムに行きたいと相談した時、日程が合えば一緒に行こうと言ってくれましたが、なかなか日程が合いませんでした。数回沢登りを一緒に行った時「山田さんなら一人で大丈夫。ただし、奥穂からではなく、西穂から向かった方がいいよ。最後のナイフリッジは、下りでの通過は下が見えるので怖いから、登る方向で奥穂を目指したコースがいい」とアドバイスしてくれました。



2016年8月 「念願のジャンダルム登りました」と報告したのもつかの間、岩泉町は8



月30日の台風10号により甚大な被害を受けました。木村さんの住居や工場は大規模な水害を受けましたが、木村さんは工場の復旧を第一に、自ら泥かきをして自分の住居は二の次でした。私たちは9月の半ばにボランティアとして木村さんのお宅に伺った時、床上1m程まで水が上がった線が壁についており、部屋中泥だらけでした。木村さんは、被災のつらさを少しも見せずに「適当にやって

くれればいから」といつものようにニコニコ笑っていました。

2017年1月、三ツ石山の山小屋で一緒に宴会をしたのが最後の山行でした。その後5月

には尾瀬・燧ヶ岳、6月には富士山の滑降を一緒にやろうと計画しましたが、雪の状況が悪かったことなどから実現できませんでした。また木村さんが転勤で茨城に戻り、密な連絡もできないままとなってしまいました。



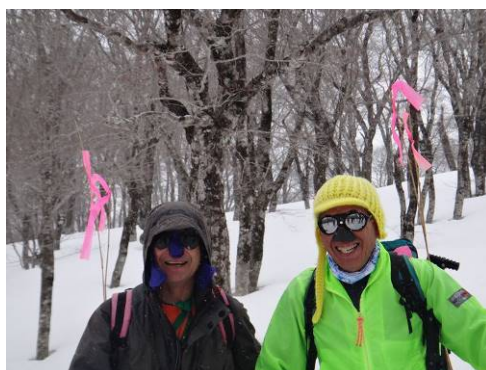
その後「あかげら」には

沢登や岩登の記事を投稿いただきアグレッシブに活動しているなあと思っていると、先日3月1日にも妙義山の岩登に行ったというメールが届き、「冬でも岩をやっているんだ。すごいな」と思いながら読ませていただいた。「またスキーに行きましょうね」と返信しましたが、もうかなわないと思うときみしさがこみ上げます。

一緒に山に行った時などは、自らの経験をもとに山での対応策などをいろいろ教えてくれました。大変感謝しています。また、山の道具など自分で工夫して使いやすく作るころ等、色々参考になりました。

山の先輩、山の頂でゆっくりお休みください。

ご冥福をお祈りいたします。



木村一さんとの思い出

No.357 渡部彩子

この招き猫の色紙は木村さんが2017年に茨城に帰るときに、私が会員の皆さんに声をかけてメッセージを書き添えていただき贈ったものです。私はカード1枚では足りなくて、こっそり2枚に書いていました。「木村さんがリーダーだと、力不足の私でも心配しないで山に行けました。」木村さんが一緒だから、チャレンジできた山がありましたと。

私が木村さんとの山行で思い出すのは、2009年4月のスキーで高下岳～和賀岳～羽後朝日岳縦走と、その前年スキーの下見として計画した2008年7月20日高下岳～大荒沢岳まで縦走です。

高畑登山口から貝沢登山口までで7時間40分。そのうち高下山頂から大荒沢山頂まで3時間半の藪こぎでした。コースは一部を除いて全員が初めて歩く道。木村さんのグレードでは藪3級（ほぼ先が見えないような本格的な藪）のコースを、私も含め初めて藪こぎをするメンバーの先導をしていただきました。木村さんが先頭で、登山道があ

ったとは信じがたい藪にしかみえない場所で、過去の登山者のかすかな足跡、枝の微妙な変化を立ち止まり観察し、それをかきわけながら進むべき方向へ誘導して下さったおかげで全員無事に、そして元気に下山し、当初の下見山行の目的を達成することが出来ました。この藪こぎ山行があったからこそ、お互いへの信頼と団結力も強くなり、翌年のスキーツアーが成功したのだと思います。

この時の参加者だった三浦良夫さんのコメントです。「生まれて初めて藪コギというものを体験し、十分に堪能しました。貴重な体験でした。gpsを持っていきましたが、ルートからずれていないか確認はできますが、藪に埋もれた山道を探すのにはあまり役立たないですね。木村さんの人間gpsにはかないません。」

私は今でもこの言葉を思い出します。木村さんの数多くの経験には、メカを超えるものがありました。木村さんの人間GPSは導いてくれました。全ての経験に無駄はなく、積み重ねることで力量が上がり、指導力のある経験者と山行を共にすることは、全員の力量があがることでもあると実感しました。今は一緒に山に行けたことに心より感謝しています。本当にありがとうございました。



ベビーブームの昭和23年生まれ

416 福山茂和

木村さんとご一緒した山行は、多分、片手で足りる回数ぐらいしかないのですが、同じ昭和23年生まれと言うことと、下記の二点で話が合った山仲間でした。

まず、最初は木村さんのお仕事と私の現役時代のお仕事が似ていたことです。生産している物は全く違っていたのですが、納入先が同じように日本の生産の頂点に立つ「車メカ」で、要求される「カンバン方式」に悩まされていた共栄会社であったことです。特に木村さんの場合は岩泉町の工場の責任者(工場長)として頑張っておられたので2016年8月末の台風10号による工場の浸水被害の時の木村さんに掛かるストレスは相当な物だったと想像されます。この時は、会からも9月18日に21名の方が復旧の手伝いに岩泉町の工場へ伺い、この時、木村さんから頂いた「救難食料」は私のザックの中に非常食として入っています。

※カンバン方式：お客様が必要とするタイミングで必要な部品を納入すること。お客様は在庫を持たずに済むためメリットが大きいですが、出荷する共栄会社はなかなか大変です。そのため、2016年のような生産停止となるとお客様の技術者も復旧のために共栄会社に出向いてくる。

次がヒマラヤについてですが、私がヒマラヤへの夢(憧れ?)を持っていた20代の頃に木村さんは参加されていたACC-J(茨城の前身)からのヒマラヤ遠征に1976年に参加されました。目的地はパキスタンの中部ヒンドゥーラジ山脈中のトウイ・ゾム山塊の最高峰で周囲を2500m近い岩壁に囲まれブラッツ・ヨース(6191m)でした。結果は残念ながらアプレジョン・バレー(氷河の両脇の堆積地)の池が決壊してベース・キャンプが流失し食糧等が失われたため4600mまでで



断念されました。この山は未だに登られていないようでネットで検索しても情報が見つかりませんでした。唯一グーグル・アースで検索すると左記の様な写真を得られましたので掲載しておきます。

なお、上記の情報は手持ちの「ヒマラヤ名峰事典」及びACC-J当時の会報「なげろ」No.8を参考にさせていただきました。

いずれ木村さんがお仕事をリタイアしてタイミングが合えば一緒にネパールのトッキング・ピーク(6000m級)へ登る私からの提案話(元気な木村さんは登って、体力・技術で危なく眺めるだけで満足な私はベースで待つ)や、ヒマラヤ遠征時の昔話をもっとゆっくり伺いたかったです。

以上、木村さんの余り知られてない一面のご紹介で追悼文とさせていただきます。

交流の広場

今年も4月、社会は新年度が始まりました。
山の活動も冬から春に変わる季節です。
今年はどこに行こうか計画を立てたり思ったりする時です。

ふりかえれば今年の冬、初めは雪が少なめでしたが天候が穏やかな日があり、それなりに冬を楽しめた気がします。

しかし3月初めころから、その後一転寒く風も強い日があり、春の足踏みが続いています。

地球温暖化で先の天候が読めない、地球のあるところでは普段雪が降らないのに今年は大雪になったり、その反対もあります。

しかし、近い日々の天気予報は精度が上がってきています。

このことは計画をしても天気予報が悪ければ中止にすることもありになってきています。

最近転倒や転落事故が起きてきています。

何らかの原因でふらつく、つまずく、等が原因で発生してきています
その要因は疲労、高齢による機能傷害かもしれません。

そしてその時ヘルメットをしていれば助かったかもしれません。

ヘルメットを持つとがさばる、大げさに見える、などが有りますが、思い切っにかぶれば慣れてきます、折りたたみできるものや、暑さ対策したものもできています、みんながかぶりましょう。

382 三浦明夫

■□ 表紙の言葉 □■

— 「縄文杉」 —

5月26日、屋久島の宮之浦岳を目指して登山口へ、駐車場は狭い。
入山料を払い、登山開始。天気も良く、今にも落ちそうな巨岩、人面に似た岩を見ながら山頂へ。山全体にシクナゲが咲き、途中で猿にも出会う。小屋着、外で乾杯する。翌朝大雨が降りしきる中、縄文杉を見る。ツアーの団体が続々登ってくる。トロッコ道の山から沢に滝、滝、滝。川が見る見る濁流となって流れていた。大雨の中の巨大な御神木、縄文杉はただ静かに私たちを迎えてくれた。

No. 267 中村 数博

あかげら 第365号

2019年4月24日

発行者 盛岡山友会 会長 渡邊健治

編集責任者 盛岡山友会 会報部長 松田希

印刷／製本 (有)小松茂印刷所

盛岡市大沢川原2-5-37

019-623-6073

■盛岡山友会のホームページ■

http://www.geocities.jp/morioka_sanyukai/
～里山からヒマラヤまで安く、楽しく、安全に！～